

2022年度年度入学生 教養科目カリキュラムマップ

【ディプロマポリシー】											
【知識・技能】 1-1 自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力等の能力】 2-1 自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 2-2 健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 【主体性・多様性・協働性】 3-1 主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 3-2 多様化が進む社会において、多様な対話を身に付けている。											
【教養科目のカリキュラムポリシー】											
①知性や感性を磨き、学問研究や社会生活の基盤となる知識や技能を身に付け、心身の健康を育成するための科目を開講しています。 ②社会的・職業的自立を支援するために、就職活動に関する科目だけでなく、生涯にわたって自己のキャリアを築き、対話力の育成をするための科目を開講しています。 ③専門科目以外の学問領域を学ぶことにより、幅広い知識や多角的思考力および柔軟で想像性に富んだ力を身に付け、創造性に繋がるような科目を開講しています。											
分類	授業科目名	開講期				授業科目の到達目標	教養科目の学修成果 (◎=達成のために、特に重要な事項 ○=達成のために、重要な事項)				
		1年次 2022		2年次 2023			ディプロマポリシーの項目番号				
		前期	後期	前期	後期		1-1	2-1	2-2	3-1	3-2
心身の健康科目群	教育学		○		○	①将来を担う子ども達を愛情豊かに育てていくには何が大切か、どのようにすればよいのかを深く理解することができるようになる。 ②幼児教育に関する幅広い知識や多角的思考力および柔軟で創造性に富んだ思考力を身に付けることができるようになる。	◎	○			
	衣生活の知識		○		○	①衣服素材やインテリア素材に関する知識を身に付け、生活するうえで適切な取り扱いができる。 ②布を使って身の回りの小物を作ることができる。 ③衣生活や住生活をよりよくするために、工夫することができる。	◎	○			
	食事学	○		○		①「食べる」ということの根本的な意味が理解できる。 ②日常の食事作りや食材の購入、外食時に、授業で学んだ知識を実践できるようになる。		○	◎		
	食品科学		○		○	①食生活と健康について、幅広い知識を身に付ける。 ②日常生活において、食品の正しい情報を理解し選択することができる。			◎		
	体育講義	幼	○	○	○	①生涯にわたり継続的に運動を行うことの重要性を理解し、自らの生活の中に取り入れることができる。 ②これらの実践に伴う知識や態度を養うことができる。 ③積極的にグループワークに参加し、各自の価値観、気づき等についての振り返りを行う。			◎		
	体育実技	食	○	幼	○	①スポーツやレクリエーション実践を通して体力の維持向上ができるようになる。 ②生活の中に運動習慣をとりいれ実践できるようになる。			◎		
	* 健康づくり・生活支援入門	○				不開講			◎		
* 健康づくり・生活支援ワークショップ		○				①子育ての営みに関する事柄が列記できる。 ②文化について具体的に述べることができる。 ③現代の子育ての特徴が説明できる。 ④現代の子育ての問題、課題、解決のための対策について考えることができる。 ⑤子育てについて、自分の考えを述べることができる。 ⑥課題のグループワークに積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。 ⑦各ライフステージにおけるセクシュアリティの意味と課題について議論し、自己の考えを述べることができる。 ⑧様々な健康レベルにおけるセクシュアリティの意味と課題について議論し、自己の考えを述べることができる。 ⑨ピアサポート活動や当事者運動を通して、HIVに関する知識を獲得し、セクシュアルヘルスについて考えることができる。 ⑩セクシュアルマイノリティの当事者運動や社会の動向を通し、LGBTQに関する知識を獲得し、課題を考えることができる。 ⑪様々なライフステージや健康レベルにある人のセクシュアリティに関する支援について議論し、自己の考えを述べることができる。 ⑫各テーマについてのグループワークに参加し、他者の意見を聞くことで、自己の考えとの違いを理解し、より深く思考することができる。	◎				

2022年度年度入学生 教養科目カリキュラムマップ

分類	授業科目名	開講期				授業科目の到達目標	教養科目の学修成果 (◎=達成のために、特に重要な事項 ○=達成のために、重要な事項)					
		1年次 2022		2年次 2023			ディプロマポリシーの項目番号					
		前期	後期	前期	後期		1-1	2-1	2-2	3-1	3-2	
心身の健康科目群	* 健康・生活支援指導論実習		○			①スポーツに関する幅広い知識と技術が習得できる。 ②健康づくりと運動との関係に関する知識を身につけることができる。 ③状況や対象に合わせた行動をとることができる。 ④状況に応じて適切にコミュニケーションをとることができる。 ⑤自分たちの考えを周囲に伝えることができる。			◎			
コミュニケーション科目群	異文化コミュニケーション	○		○		①異文化コミュニケーションの知識を深め、友好的なコミュニケーションができる。 ②異なる価値観や多様性を尊重することができる。 ③異文化適応性を養うことができる。	◎					
	心理学 I	○		○		自分の日常生活における心理学を科学的視点で捉えることと、自分以外の人の知覚・感覚に対する想像力を身につけていく。	◎					
	英会話	○	○	○	○	①This course will help students acquire basic skills necessary for effective oral communication. ② The course will provide students with opportunities to develop and improve their speaking and listening skills.						◎
	英語コミュニケーション(a) (担当: 谷山 澤子)	総				① テキストの内容を正確に把握することができる。 ②テキストの要旨を英語でまとめることができる。 ③論理的なエッセイを英語で書くことができる。	◎					
	英語コミュニケーション(a) (担当: 上野 和廣)	総		食		①基本的な文法や語法などをもう一度しっかり学習し、英語でのコミュニケーションができるようになる。 ②社会に出てから英語が必要になったとき、独学で英語力を向上させる学習方法を身に付けることができる。						◎
	英語コミュニケーション(a) (担当: 杉田 米行)	総幼				①自己紹介や自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて英語で述べ、受け答えができるようになる。 ②場面に基づいて、短い会話の全体的な内容を把握できるようになる。 ③相手の話す内容に集中して耳を傾けることができるようになる。 ④理解が不十分な場合、積極的に相手に確認することができるようになる。 ⑤発音や会話練習に積極的に参加できるようになる。 ⑥聞き取った内容を書き留めることができるようになる。 ⑦分からない単語や表現について、辞書などで調べることができるようになる。						◎
	英語コミュニケーション(b) (担当: 谷山 澤子)		総			①テキストの内容を正確に把握することができる。 ②テキストの要旨を英語でまとめることができる。 ③論理的なエッセイを英語で書くことができる。	◎					
	英語コミュニケーション(b) (担当: 上野 和廣)		総	食		①基本的な文法や語法などをもう一度しっかり学習し、英語でのコミュニケーションができるようになる。 ②社会に出てから英語が必要になったとき、独学で英語力を向上させる学習方法を身に付けることができる。						◎
	英語コミュニケーション(b) (担当: 杉田 米行)			総幼		①大学生活、身の回りのできごと、社会情勢等について簡単なコミュニケーションを英語ですることができるようになる。 ②さまざまな場面に基づいて、短い会話の全体的な内容を把握できるようになる。 ③相手の話す内容に集中して耳を傾けることができるようになる。 ④理解が不十分な場合、積極的に相手に確認することができるようになる。 ⑤暗誦練習やドリルに積極的に参加できるようになる。 ⑥聞き取った内容を書き留めることができるようになる。 ⑦分からない単語や表現について、辞書などで調べることができるようになる。						◎
	英語講読(a) (担当: 谷山 澤子)	○		○		①実践的な英語表現を正しく理解することができる。 ②行間を読むことができる。 ③テキストの要旨を英語でまとめることができる。 ④テーマに沿って論理的な英語の小論文を書くことができる。	◎					
英語講読(a) (担当: 上野 和廣)	○		○		①英語で書かれた内容を正しく理解し、展開されている論理やストーリーを正確に把握できるようになる。 ②辞書等を使いこなして、社会に出て自分ひとりの力で英語力を向上させることができるようになる。						◎	

2022年度年度入学生 教養科目カリキュラムマップ

分類	授業科目名	開講期				授業科目の到達目標	教養科目の学修成果 (◎=達成のために、特に重要な事項 ○=達成のために、重要な事項)				
		1年次 2022		2年次 2023			ディプロマポリシーの項目番号				
		前期	後期	前期	後期		1-1	2-1	2-2	3-1	3-2
コミュニケーション科目群	英語講読(b) (担当: 谷山 澤子)		○		○	①実践的な英語表現を正しく理解することができる。 ②行間を読むことができる。 ③テキストの要旨を英語でまとめることができる。 ④テーマに沿って論理的な英語の小論文を書くことができる。	◎				
	英語講読(b) (担当: 上野 和廣)		○		○	①英語で書かれた内容を正しく理解し、展開されている論理やストーリーを正確に把握できるようになる。 ②辞書等を使いこなして、社会に出て自分ひとりの力で英語力を向上させることができるようになる。					◎
	フランス語 I	○		○		①正しく発音できるようになる。 ②文の仕組みを理解できるようになる。 ③挨拶や自己紹介を言えるようになる。					◎
	フランス語 II		○		○	よく使われる文や表現が理解でき、現地での買い物など簡単なやり取りができるようになる。					◎
	中国語 I	○		○		①中国語の発音と声調のマスターが出来るようになる。 ②日常生活中での挨拶言葉が話せるようになる。 ③自己紹介出来るようになる。 ④簡単な中国語の文章が理解できるようになる。					◎
	中国語 II		○		○	①現代中国語で使われている簡体字や文法についての知識を深め、中文を理解出来るようになる。 ②将来独学ができるように基礎力を付ける。 ③中国語検定4級程度の常用語彙を身に付けるようになる。					◎
	イタリア語 I	○		○		①発音のルールを理解し、つづりを見て発音できるようになる。 ②基本的な文法事項を理解し、会話で応用させることができる。 ③自分の身の回りについてイタリア語で表現できるようになる。					◎
	イタリア語 II		○		○	①発音のルールを理解し、つづりを見て発音できるようになる。 ②基本的な文法事項を理解し、会話で応用させることができる。 ③自分の身の回りについてイタリア語で表現できるようになる。					◎
	日本語入門	○		○		①ふだん使っている日本語の基礎的な知識を身に付け、日本語の特徴を正しく理解できるようになる。 ②日本の文化や日本人の持つ感性が、日本語に与えた影響について理解し、その魅力を説明できるようになる。					◎
	海外語学演習	単位はその都度認定する									◎
* 人間関係づくりワークショップ		○			①コミュニケーションの理論やスキルを習得することができます。 ②他者の気持ちを「受容」「共感」することを味わい、自分自身や他者への気づきを深めることができます。 ③感情のコントロールについて理解し、他者からのフィードバックを受け入れ、冷静に対話することを学び、自己成長することができます。 ④プレゼンテーションが求められる場面や初めて出会う人の前で、不安や緊張をコントロールし、自信を持ってパブリック・スピーキングができるよう習得します。 ⑤これまで一過性の個人的体験であった自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新たな行動様式を身につけることができます。 ⑥これからの人間関係づくりを肯定的にとらえ、可能性に満ちた学生生活のきっかけになることを目標とします。					◎	

2022年度年度入学生 教養科目カリキュラムマップ

分類	授業科目名	開講期				授業科目の到達目標	教養科目の学修成果 (◎=達成のために、特に重要な事項 ○=達成のために、重要な事項)					
		1年次 2022		2年次 2023			ディプロマポリシーの項目番号					
		前期	後期	前期	後期		1-1	2-1	2-2	3-1	3-2	
感性を磨く科目群	造形美術	○	○	○	○	自分の思い描いているイメージをコンピュータ上で具現化できるようになる。		◎				
	芸術表現学		○		○	①芸術表現の歴史について理解することができる。 ②現代社会の中で必要な美的感覚と感性を高めることができる。	◎					
	音楽鑑賞	○		○		①音楽を聴き、そこにあるメッセージや基本的な特徴を感じとることができる ②感じたことを言葉や絵で表現することができる	◎					
	日本文学		○		○	①授業で取り上げた古典文学作品の魅力を知り、深く理解・鑑賞できるようになる。 ②日本の古典文学史に関する基礎的な知識を身に付け、概要を説明できるようになる。 ③日本の古典文学作品が後世へ与えた文化的影響について見聞を広め、その価値を理解できるようになる。	◎					
	日本の伝統文化	○		○		学ぶ、鑑賞する、体験するなど、さまざまな角度から「茶の湯」の世界を探求し、日本の美をみつめることができる。						◎
キャリアアップ科目群	情報リテラシー(コンピュータの活用) (担当:堀 桂太郎、清光 英成、平田 真弓)	○				① パソコンの基本操作ができる。 ② ワードを使った文書処理ができる。 ③ インターネットを適切に利用できる。 ④ セキュリティ、情報倫理について理解し、正しく行動できる。	◎				○	
	キャリアへのアプローチ I	○				① 学生が女性として社会に参画するとはどういうことかを把握することができる。 ② 仕事を核にしたライフデザインを描くことができる。 ③ 自己分析ができるようになる。 ④ さまざまな職業と多様な生き方の選択があることを理解することができる。					◎	
	キャリアへのアプローチ II		○			① 就職サイトが活用できるようになる。 ② エントリーシートが書けるようになる。 ③ 就職試験のためのマナーとして、文書・電話・Eメールが的確に使えるようになる。 ④ 面接で自信をもって自己PRができるようになる。 ⑤ 就職のためのグループディスカッションができるようになる。 ⑥ 自らの希望・実力に見合った就職先を見つけることができるようになる。					◎	○

2022年度年度入学生 教養科目カリキュラムマップ

分類	授業科目名	開講期				授業科目の到達目標	教養科目の学修成果 (◎=達成のために、特に重要な事項 ○=達成のために、重要な事項)					
		1年次 2022		2年次 2023			ディプロマポリシーの項目番号					
		前期	後期	前期	後期		1-1	2-1	2-2	3-1	3-2	
社会を理解する科目群	子どもと社会		○		○	①問題提起されたテーマに関して、基礎的な知識を得るリサーチ力を培うことができる。 ②リサーチしたうえで、自分の考えをまとめ、最終発表の場で発表できる表現力を身に付けることができる。		◎				◎
	神戸学	○		○		神戸の歴史と文化を習得し、教養を深める。	◎					
	日本の生活文化		○		○	①様々な日本の生活文化について学び、日本人が昔から伝え育んできた日本の心を見直してみることができる。 ②将来の日常生活に活かすことができるような日本の生活文化の知識を習得することができる。	◎					
	ボランティアの実践 (担当:上野 和廣)	○	○	○	○	①ボランティア活動に必要とされる責任感を身に付けることができる。 ②社会で必要とされるコミュニケーション力を実践的に身に付けることができる。						◎
	ボランティアの実践 (担当:松岡 恵)	○	○	○	○	ボランティア活動への責任感と、社会での実践的なコミュニケーション力を身に付けることができる。						◎
	ボランティアの実践 (担当:古田 貴美子)	○	○	○	○	①ボランティアの意味を理解し、他者の助けのありかたを考えることができる。 ②有償、無償の概念にとらわれず、与えられた仕事への責任感を身に付けることができる。 ③様々な状況の人と関わり、コミュニケーションする力を身に付けることができる。						◎
	日本国憲法	○	○	○	○	憲法の原理を正しく理解し民主主義政治の主人公として振る舞えるようになる。	◎					
	* 地域コミュニティ入門	○				① 地域コミュニティの抱える現代的課題の理解 ② 考える力の構築 ③ コミュニケーション能力(話す力・聴く力・調整する力)の向上						◎
	* 防災・防犯入門	○				防犯や防災についての見識を備え、いざという時に行動できる						◎
	* 防災・防犯ワークショップ		○			防災・防犯活動について説明することができる。(知識) 日頃から防災・防犯に関するニュース等に関心を持つ。(態度・習慣) 防災・防犯活動における危機管理能力を身につける。(技能)						◎
	* 防災・防犯指導論実習		○			身近な犯罪被害からの防止対策の習得、市民救命士の習得、自然災害等の原因や結果を自分で考える基礎知識を身につける						◎
	* 地域連携インターンシップ I				○	①参加したプログラムの趣旨や参加者を理解し、その意義を第三者に説明できる。(知識・態度) ②地域連携に参加して、地域の問題点を挙げるができる。(知識) ③活動内容や目的、自身はどのように貢献できたかを、客観的に評価し、表現できる。(技能・態度) ④連携事業の多様なプログラムへの参画や自主活動を通して、新たに企画をたてる際の手順を学び、説明できる。(知識・技能)						◎
	* 地域連携インターンシップ II				○	①参加したプログラムの趣旨や参加者を理解し、その意義を第三者に説明できる。(知識・態度) ②地域連携に参加して、地域の問題点を挙げるができる。(知識) ③活動内容や目的、自身はどのように貢献できたかを、客観的に評価し、表現できる。(技能・態度) ④連携事業の多様なプログラムへの参画や自主活動を通して、新たに企画をたてる際の手順を学び、説明できる。(知識・技能)						◎

* ポーアイ4大学共通教養科目